国際武道シンポジウム

巻　頭　言

国際武道シンポジウム大会会長
福永哲夫（鹿屋体育大学・学長）

鹿屋体育大学では，開学以来，武道の振興を大学のアイデンティティの主柱の一つとしてまいりました。この度の国際武道シンポジウム開催は，法人化以後，社会的に公約してきた企画であり，「スポーツを通じて国際感覚の養成に努める」とする鹿屋体育大学の趣旨にもかなう事業でもあります。

本日の国際武道シンポジウムは，武道礼法に焦点を当てた試みですが，本学の武道教育において礼法教育を改めて意識的に問い直すことを通じて，学部通則にある「道徳的及び応用的能力を展開し得る優れた実践的な体育指導者を養成すること」と謳った目的を具現化し，その質的向上を図ることが期待されるところです。このたびの国際シンポが，21 世紀における武道の存在意義と使命を国際的に問い直す機会となると同時に，本学における学士課程教育の修養的教養の水準を高めることに繋がることを念願しております。

体育大学として，礼法やマナーのスキルを伴った身体感覚を学生のうちに育て，礼儀作法の指導を次世代に施し得る武道指導者を育成することの今日的意義は大きいといえます。ことに武道においては，技の習熟と人格の向上とが密接に関連する，と言われます。

今回のシンポジウムを契機に，学生諸君のうちに自律的かつ主体的な規範感覚が養われ，凛呼たる生命力の賦活がはかられ，今まで以上に凛々しく端正な姿勢を具え，趣き深い礼法のできる武道家・武道指導者が輩出することを期待しています。かかるスピリチュアルな様式美を伴う「立ち居振舞」の習得は，本学の〈理念〉が謳う「運動形式を洗練し（中略）我が国の身体文化の豊饒化（後略）」を志向する趣意に通ずるものであることは言うまでもありません。

おかげさまで，国内外から第一級の武道家・武道研究者を招聘することができました。今回の国際武道シンポジウムを契機として，本学がより一層「個性が輝く大学」として発展し，知名度を高めゆくことを期待する次第です。